



ふじわらけい 藤原恵子 議員

就学前の子どもに費用助成を

B型肝炎予防

〔答〕 優先順位を見ながら検討

問 平成28年4月以降に生まれた一歳未満児は計3回の予防ワクチン接種が無料となった。

町長 有料(約2万円)の任意接種となる就学前の子どもに費用を助成できないか。

町長 定期接種に重点を置き、状況を確認しながら接種率の向上を図っていく。

問 B型肝炎は現在の医療では完治できない。近年は母子感染より水平感染の比率が高い。

町が定期接種対象外



すくすくと育ててね

の子どもに助成した場合の予算は。

長寿健 康課長 就学前の子どもを対象に半額補助し、仮に5割が接種した場合、3〜400万円になると思われる。

問 すでに助成を行っている自治体もある。子どもたちの未来のために、予算化を検討すべきでは。

町長 他の病氣予防も含め、現場を見ながら優先順位を検討していく。

※水平感染とは…家庭内で父親や兄弟、保育園で乳幼児が感染すること。

子育て支援

「赤石こどもの家」改善を急いで

〔答〕 29年度中に方針決定

問 26年の総務省による子どもの相対的貧困率は、前回の調査と比較して2ポイント減少したが、町の現状はどうか。

教育長 生活が苦しい状況にあると思われる世帯は、やや増加傾向にあると推察される。

問 「子供の未来応援基金」の活用はされているか。

教育長 交付金は、経済的に厳しいひとり親家庭の子どもに対する学習支援や、居場所づくりのための支援計画策定、地域のネットワーク形成を支援するもので、町では交付金の活用はしていない。

今後は、交付金を活用できる事業メニューを取り入れながら施策を講じる。

問 赤石こどもの家は、児童の増加により2カ所にあるが、施設の危険性や面積の改善を急ぐべきでは。

町長 2カ所とも別用途の建物を利用して

いるため不具合を改修しながら活用している。今後については29年度中に方針を決定したい。

問 より良く改善するということか。

副町長 老朽化、安全性などの課題がある。場所、規模、目指す期限まで方針を決定したい。



赤石第二こどもの家

一般質問



ほうじょう きく お 北條喜久男 議員

生産調整

水田農業の方向性は

〔答〕 紫波町農業再生協議会で検討

問 平成30年から生産調整廃止となった時の水田農業の在り方は。

間もなく示すことができ。銀河のしずくの作付けはどのように

てくるが、生産組合の広域化についての考えは。

町長 紫波町農業再生協議会において、今後の取り組み方針を検討していく。

町長 29年度の町の作付面積は200ヘクタール規模の配分となる。県の示す基準を満たす農家が栽培する。

町長 持続的で力強い農業構造を実現するために関係機関と連携し取り組んでいく。

農林課長 29年度の単価は大きな変動はなく、水田活用の交付金はいつ決まるのか。

問 一集落での担い手確保が難しくなっています。

※紫波町農業再生協議会とは：地域農業の振興、農地の利用、担い手の育成・確保などを目的として組織された協議会。



待望の新品種

教育環境

学校統合の考えは

〔答〕 教育審議会による答申を受け検討

問 西部、東部の複式学校解消のためには。

ことは有り得る。介護老人福祉施設の待機者の対策は、地域全体で支える

教育長 教育審議会による29年8月の二次答申後、29年度末をめどに検討していく。

町長 「包括ケア」の構築に向けた、在宅サービス体制の充実を目指していく。

問 統合があつた場合、空き校舎を高齢者施設などの様々なサービ

町長 認知症支援の進捗状況と予防対策は、認知症地域支援推進員を地域包括支援センターに配置し、

長寿健康課長 入所施設としての利用は様々な基準があり難しい。通所、デイサービスなどのサービス利用について、今後検討していく

家庭訪問や相談援助を行うほか、認知症講座を行っている。



小学校の複式授業風景